



Manuia

サモ「輪」がサモ「和」へ

設立 15 年を迎えた 2009 年度は、当 OB 会にとって大きな転換期になった年だと言えます。前回の第 9 号会報の巻頭で「今後もサモア関係者を含め多くの「輪」を作り、それを線でつなぎ、そして面に広げ、大きな心意気の「和」となっていけば・・・」と書きました。本年度、サモア関係者の「輪」、在日サモア人コミュニティ



の「輪」、サモア大使館の「輪」など様々な「輪」が生まれました。当 OB 会ではこの個々の「輪」を線でつなげ、面に広げ、

大きな心意気の「和」になるための中心的な役割を果たせたのではないかと思います。そしてその「和」が、サモアを支援する強力な「力」になったと思います。

今後もこの「和」を大事にして様々な活動を行っていただければと思いますのでどうぞご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

また今回のサモア津波被害で犠牲になった方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに早期の復興を心より願ってやみません。

第三回協力隊まつり

2009 年の協力隊まつりが 4 月 25 日(土)及び、26 日(日)の両日 JICA 地球ひろばにて行われました。

今回で三回目ともなれば、ほとんど恒例化しつつあって、既に有志で実行委員会なるものも出来、運営側の整備も随分とまとまったという印象です。さて、当日はまたしても炸裂しましたよ。サモアンご夫人がたのパワー

が、助っ人で参加して下さったファティノ=川上夫人、ジョセフィー=多田夫人による呼び込みで、パンケケの売り上げは一昨年の 1.5 倍に。二日目の昼には完売して



いつもどこでも陽気なサモア人

しまう始末。もっとと具材の量をたくさん要請していればよかったなあと悔やんでも、そこは出たとこ勝負の協力隊まつり。客足は天気にも大きく左右されるため、見込み違いで逆に余らせる結果にもなりかねません。それにしてもサモアンご夫人がたの大声が会場いっぱい響き渡り、「あれはどこのブースなんだ!」「なぜサモア人がここにいるんだ!」など、方々から質問の嵐。飲食ブース連の中でも一番目立つ存在となっていました。毎年秋の「グローバル・フェスタ」に並んで春に開催されるこの「協力隊まつり」。今後は定着する可能性が高くなる。政府の事業仕分けにより JICA 地球ひろばさえ一旦は閉鎖の話が持ち



大雨の中で皆さんお疲れ様でした。

上がったようですが、こういった催し物によるアピールでその存在価値を訴えていきたいという JOCA のねらいがあるようです。この地はかつて JOCV の広尾訓練所であり、表玄関脇には協力隊活動で命を落とした隊員の慰霊碑があります。我々にとってはいわば「聖地」です。サモア OB 会としても JOCV の栄光を失わないためにも、できるだけ参加、協力を惜しまないつもりでいます。【H6-2 音楽 澤井慶太】

サモアコミュニティ BBQ パーティー

まず最初に情報が私のところに飛び込んできたのは突然のサモア OB 会からのメールでした。その内容をよ

く読むと...

場所: オーストラリア大使館

備考: 室内プールがあり使用可能なため泳がれる方は水着をご持参下さいなど、とても興味をそそる言葉が踊っていました。早速、参加の連絡をしました。隊次の近い野口さんも参加するとのことなので少し安心できまし



サモア OB 会参加関係者

た。当日、慣れない三田という場所でドキドキでしたが、オーストラリア大使館の前では、見慣れた顔が並んでいてとたんに楽しみになりました。幾重ものセキュリティの扉を抜けると中庭のようなところにテントが用意されており、その横にはプールのようなものが見えました。このオーストラリア大使館に入れたということも、自慢になっています。バイリマを楽しみにしていたのですが、オーストラリアへの任国外旅

行で一番おいしいと思ったビアのクラウンラガーがありました。もうこれだけで十分満足できましたが、さらに懐かしいサモア



フードが用意されており、中央が駐日サモア大使ご夫妻久しぶりに「マオナ、マオナ」など言いながら、サモアにいた頃、現地のサモア人にたくさん食べさせられたのを思い出しました。途中で、「ノリオ」と呼び止められ、僕を知ってるサモア人がいるのかと振り返ったら、NUS の留学生がホームステイをしていた家族でした。まさかこんなところで会うとは。サモアではどこにでも知り合いはいましたが...サモアンダンスもあり、日本人も参加しましたが、サモア人は飛び入りで踊ってい